

令和4年度 経済環境委員会行政視察報告書

経済環境委員会
委員長 泉 英之

1 視察期間 令和4年10月27日（木）

2 視察先及び視察事項

（1）富山地区広域圏エコロセンター

「有害鳥獣焼却施設の設備について」

（2）富山市立上滝中学校

「「とやまペレット」を燃料とした冷暖房設備について」

（3）丸新志鷹建設株式会社（木質ペレット工場）

「富山県産杉間伐材を利用した「とやまペレット」の製造について」

3 視察参加委員

委員長	泉	英之
副委員長	澤田	和秀
委員	飯山	勝彦
〃	舎川	智也
〃	高田	真里
〃	大島	満
〃	橋本	雅雄
〃	横野	昭
〃	佐藤	則寿

4 随員職員

議事調査課長	坂口	輝之
議事調査課主任	江部	なな恵

5 視察概要

(1) 視察事項

- ・有害鳥獣焼却施設の設備について
- ・「とやまペレット」を燃料とした冷暖房設備について
- ・富山県産杉間伐材を利用した「とやまペレット」の製造について

(2) 視察の目的

富山地区広域圏エコロセンター

本市を含む富山地区広域圏構成市町村においては、イノシシなどの有害鳥獣により住居や農業施設、農作物等への被害が深刻となっている状況から、捕獲活動を実施し積極的な駆除対策を行ってきた。令和元年度に豚熱感染イノシシが確認されたことに伴い、感染イノシシが発見された地点から半径10キロメートル以内で捕獲等されたイノシシについては埋設または焼却により処分することが必要となった。

このような中、豚熱感染イノシシ対応の長期化が想定され、新たな埋設場所の確保や冬期間の埋設が困難なこと等が各市町村共通の課題となっていたことから、富山地区広域圏事務組合が主体となって有害鳥獣焼却施設「エコロセンター」を整備し、本年7月から稼働を開始した。当該施設を視察し、鳥獣被害防止対策に対する理解を深め、今後の委員会活動の参考にするもの。

富山市立上滝中学校

本市では、後述する丸新志鷹建設株式会社の木質ペレット工場で製造される「とやまペレット」を燃料とするペレットストーブやペレットボイラーを公共施設に設置し、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいる。

このたび、令和3年12月に完成した上滝中学校にペレットボイラーによる冷暖房設備が設置されたことから、その稼働状況を視察し、木質バイオマスの有効活用について理解を深め、今後の委員会活動の参考にするもの。

丸新志鷹建設株式会社（木質ペレット工場）

本市では、平成19年4月に富山市バイオマスタウン構想を公表し、新エネルギーとしての多様なバイオマス資源の循環利用を推進する中、木質バイオマスの有効活用策として木質ペレットの事業化に向け、検討を重ねていた。事業化に当たっては、木質ペレットを生産、供給できる体制の構築が不可欠だが、当時、市内には製造施設がなく、また、新たな施設整備には多額の初期投資や原料の安定的な確保など、解決すべき課題が山積していた。

こうした中、国において、本市を含む環境モデル都市を対象とし、温室効果ガスの削減に資する施設の整備費用等に対して全額を補助する補助制度が平成20年度に新たに創設された。この補助制度を活用して建設された丸新志鷹建設株式会社の木質ペレット工場を視察し、エネルギーの地産地消への理解を深め、今後の委員会活動の参考にするもの。

(3) 取組の概要

富山地区広域圏エコロセンター

富山地区広域圏エコロセンターは、中新川郡立山町小又にあり、富山地区広域圏構成市町村の職員または鳥獣被害対策実施隊員等が捕獲したイノシシ、ニホンジカ、ニホンザル等の有害鳥獣を月曜日から土曜日まで（午前9時から午後4時まで）受け入れている。

搬入された有害鳥獣は、計量された後、腐敗などによる悪臭を防止するため冷凍庫で一時保管される。焼却炉は2基あり、有害鳥獣を台車に乗せた後、炉内挿入から焼却、炉外抽出までを自動で行える設備となっている。

試験運用が開始された本年6月から9月までの期間で、5市町村から計464頭の有害鳥獣が搬入され、435頭が焼却処分された。

富山市立上滝中学校

富山市立上滝中学校では、校舎の建て替えに合わせて「とやまペレット」を燃料とする冷暖房設備が整備され、本年1月から稼働している。

職員室等がある管理棟に設置されており、運転の操作については職員室で時間設定をするだけで稼働できることから、教職員の負担は少ない。

また、燃料であるペレットの残量が少なくなるとタンクに設置されたセンサーが反応し、納入業者である丸新志鷹建設株式会社の木質ペレット工場に通知されるため、学校では残量のチェックや補充依頼の連絡をする必要がなく、教職員の負担軽減につながっている。

丸新志鷹建設株式会社（木質ペレット工場）

丸新志鷹建設株式会社では、平成20年度に創設された国の補助制度を活用し、平成22年3月に木質ペレット工場を建設した。

木質ペレットには、1つに、間伐材を原材料とすることから森林の整備・間伐の推進を手助けする、2つに、化石燃料とは異なり数十年での再生が可能である、3つに、木質ペレットが燃焼して排出する二酸化炭素量は原木が成長するときに吸収する二酸化炭素量と同等であるため、大気中の二酸化炭素を増加させないなどの特徴があり、地球環境に優しい森林エネルギーである。

この工場で製造される「とやまペレット」は、立山山麓森林組合及び婦負森林組合が伐採した杉間伐材を原材料としており、エネルギーの地産地消に寄与している。また、建築廃材や化学処理された木材を一切使用していないため、燃焼灰は安全な草木灰となり、天然有機特殊肥料として家庭菜園や花壇などに散布できることも特徴の1つである。

製造された「とやまペレット」は専用のペレットストーブやペレットボイラーが整備された施設に供給されるほか、一般家庭向けに市販もされている。

（４）所感

〔泉委員長〕

富山地区広域圏エコロセンター、丸新志鷹建設株式会社木質ペレット工場及び「とやまペレット」を燃料とした冷暖房設備がある上滝中学校の３件を視察したが、特筆すべきは、富山市に関連する立山山麓森林組合と婦負森林組合が伐採した地場産間伐材が地元のペレット工場にて製品化され、近隣の上滝中学校の冷暖房システムに利用されていることである。

まさに富山市が掲げるＳＤＧｓが大山地域で実践されており、この後、幾つかの施設でこの設備が採用されさえすれば、工場も採算が取れると伺ってきており、林業における持続可能な循環型社会の実現が目の前まで来ていると感じた。

〔澤田副委員長〕

富山地区広域圏事務組合が立山町小又に整備した、富山地区広域圏エコロセンターを視察した。イノシシなどを１日当たり最大５００キログラム焼却できる２つの焼却炉や保管用冷凍庫、事務室などを備える。富山地区広域圏事務組合を構成する５市町村で捕獲されたイノシシやニホンジカ、ニホンザルを処理する。今後、捕獲量が増えた場合の処理能力が課題となる。保管用の冷凍庫の増設等が必要となりそうである。また、市街地から離れた山間地に位置しているため、民間委託が進まないところを考えていかなければならない。

〔飯山委員〕

立山町小又にある富山地区広域圏エコロセンターは、ニホンジカやイノシシなどの有害鳥獣を焼却処分する施設で、荷重計量後、マイナス２０度で冷凍保管した後に焼却するとのこと。焼却炉は２基あり交互運転で稼働しており、１基当たり１日に５００キログラム程度を処理することが可能。燃料は灯油を使用している。施設内は清潔に保たれており、汚臭等は全くなかった。

上滝中学校の「とやまペレット」（木質固形燃料）を燃料とした冷暖房設備では、ペレットを使用することで燃料代のコストダウンができるそうだが、細かい温度管理は難しく、通常の広さの教室での使用は不向きなようだった。

丸新志鷹建設株式会社の木質ペレット工場で製造されるペレットの原料は、県内の森林からの間伐材や間伐材加工場から発生する端材等であり、再生可能な資源である木材の総合的な利用に役立っている。また、燃焼灰は天然有機特殊肥料として家庭菜園等での散布が可能であり、本市でも森林エコエネルギーである木質ペレットの普及に力を入れている。

〔舎川委員〕

富山地区広域圏管内で捕獲されたイノシシは、焼却施設がないために、これまで埋設処分に対応していたが、新たな埋設場所の確保が困難となっていた。令和４年７月に構成市町村との連携により当該焼却施設の整備に至った。今年度は８月をピークに、１日当たり７頭を焼却した。冬場の稼働はなく、焼却炉の管理が今後の課題。

エネルギー資源の少ない日本では、将来の安定した資源を自らで補完できる方策を模索する必要がある。県土の70%を森林が占める富山県においては、その森林資源を有効に活用するため、木質ペレットは大いに価値があると考えられる。今回は、上滝中学校で導入され運用に問題がないことを確認した。森林の管理も含めて、今後の間伐材による資源の活用について研究が必要である。

〔高田委員〕

富山地区広域圏エコロセンターにおいては、豚熱の長期化も懸念されたことから、課題とされていた有害鳥獣焼却施設を整備。排ガスは再燃焼炉内で850度以上の高温で数秒以上滞留させることで分解され、公害物質が無害化される。

上滝中学校においては、ペレット冷暖房の管理は職員室のシステムで可能で、ペレットの補充は業者が行ってくれるとのこと。また非常時用に灯油での対応も可能とされており、拡充を期待する。

丸新志鷹建設株式会社の木質ペレット工場は、県内の杉間伐材供給による100%安心できるペレット工場。丸ごと活用されるもので、地球環境に優しく、森林面積の多い富山市において間伐の推進にもつながり、カーボンニュートラルにも貢献となる。利活用を推進したい。

〔大島委員〕

豚熱（CFR）感染イノシシ処分については喫緊の課題であったが、富山地区広域圏事務組合の事業として、最速で決定、事業化された。国の鳥獣被害防止総合対策交付金が令和2年度から繰り越され、令和3年度の事業完成の見通しが困難と言われたが、該当して安堵している。豚熱感染によりジビエ料理の普及に大打撃を与え、また埋設場所がないために不十分な処理により住民トラブルが絶えなかったため、重要な施設となった。欲を言えば、もう少し近い場所にあればよかったが、迷惑施設であるため、やむを得ない。

丸新志鷹建設株式会社の木質ペレット工場においては、市からの補助金はあるが、地元の2森林組合から間伐材を安定供給し、県産の純粋な木材でペレットを製造することによって有害物質の煙の排出がないことは、森を活性化するためにもすばらしい仕組みである。不透明な世界情勢や円安により燃料費が高騰する中で、採算性が注目される。

〔橋本委員〕

丸新志鷹建設株式会社の木質ペレット工場は、平成22年3月に完成している。以来12年、富山市東富山温水プールや立山町の吉峰温泉等、木質ペレットボイラーの燃料として使用されてきた。着実に実績を積み重ねており、本年1月からは上滝中学校の冷暖房設備にも使用されている。ここでは、富山県の森林からの間伐材や間伐材加工場から発生する端材を原料にすることで、本県の資源を有効利用している。さらには森林の整備・間伐の推進に寄与していることも忘れてはならない。木質ペレットの需要拡大に努めるとともに、安定供給への取組も必要であろう。

〔横野委員〕

有害鳥獣焼却施設については、埋設処分箇所には苦慮していた地域にとっては念願の施設であり、有効に生かされることを期待したい。

丸新志鷹建設株式会社木質ペレット工場については、林業の活性化に寄与できる杉の間伐材を有効利用していて、石油燃料の高騰が続く中で、一般市民にも広く普及を進める必要がある。

また、公的施設として上滝中学校の空調設備に利用しているが、実績が上がることを期待して、今後の公的施設での活用に向けて検討してほしい。

〔佐藤委員〕

全国的に広がる鳥獣被害への対策は本市においても課題だ。そうした中で、富山地区広域圏事務組合による有害鳥獣焼却施設が完成した。立山町の山間地で住民理解は得られるものの、降雪などの災害対応を懸念したが、融雪や電源、保管冷蔵庫などの施設も充実しており、順調な稼働が見込まれることから安堵した。

丸新志鷹建設株式会社の木質ペレット工場は、施設整備から十数年が経過しており、機械等の老朽化やペレット需要などの課題が山積する中で、学校教育など本市が取り組む環境施策の一環としても、誇りを持って社員が従事できるよう今後もバックアップしたい。

令和4年10月27日（木） 富山地区広域圏エコロセンター



富山市立上滝中学校



丸新志鷹建設株式会社（木質ペレット工場）

